１－１　風水害

⑵ 浸水，土砂災害等の危険箇所の確認及び色塗り等

地域の危険箇所等について，色を塗ったり，シールを貼ったりします。以下の①～④を確認しながら，色を塗り分けていきましょう。

①過去に浸水した場所，浸水想定区域

・過去に浸水が発生した範囲を「水色」に塗りましょう。

・浸水想定区域等に基づく，洪水ハザードマップがあればそれを落とし込みましょう。

②過去に土砂災害が発生した場所，土砂災害警戒区域等

・過去に土砂災害が発生した場所を「茶色」に塗りましょう。

・土砂災害危険箇所や土砂災害警戒区域等の土砂災害ハザードマップがあればそれを書き写しましょう。

③危険箇所

・①②以外で危険と思われる箇所に「赤色●」シールを貼りましょう。

例）転倒，落下，倒壊時に危険となる設備（燃料，毒性の高い物質が貯蔵されている場所，ブロック塀，石垣，屋外広告物など）

④災害時要援護者

・災害時に援護を必要とされる方がいれば，「黄色●」シールを貼りましょう。

例）一人暮らしの高齢者，寝たきり，障害のある人，妊産婦，乳幼児，外国人等

⑶ 地域の「人的，物的防災資源」の確認及びシール貼り等

防災の観点から見た地域の資源について，地図に書き込んだり，ふせん紙やカラーラベルを貼って表示します。

①公的機関

・官公署，医療機関などの災害救援や対応にかかわる機関・施設を「青色●」シールで表示します。

例）市町村，消防署，警察署，学校，医療機関，公民館，自治会館，ヘリポートなど

②防災に役立つ施設

・地域防災に役立つ施設に「緑色●」シールを貼ります。

例）防災倉庫，消火栓，防火水槽，食料・日用品等販売店等

⇒地域の防災を考える上でプラスに働く施設，設備を把握します。

③防災に役立つ人材

・地域防災にとって重要な人材に「緑色の字で「人」」を記入します。

例）自治会長，自主防災組織リーダー，消防・自衛官とそのＯＢ等

１－２　地震

⑵ 危険箇所の確認及びシール貼り等

①危険箇所

・地震が発生した時に，危険と思われる箇所に「赤色●」シールを貼りましょう。

例）転倒，落下，倒壊時に危険となる設備（燃料，毒性の高い物質が貯蔵されている場所，ブロック塀，石垣，屋外広告物など）

②災害時要援護者

・災害時に援護を必要とされる方がいれば，「黄色●」シールを貼りましょう。

例）一人暮らしの高齢者，寝たきり，障害のある人，妊産婦，乳幼児，外国人等

⑶ 地域の「人的，物的防災資源」の確認及びシール貼り等

防災の観点から見た地域の資源について，地図に書き込んだり，ふせん紙やカラーラベルを貼って表示します。

①公的機関

・官公署，医療機関などの災害救援や対応にかかわる機関・施設を「青色●」シールで表示します。

例）市町村，消防署，警察署，学校，医療機関，公民館，自治会館，ヘリポートなど

②防災に役立つ施設

・地域防災に役立つ施設に「緑色●」シールを貼ります。

例）防災倉庫，消火栓，防火水槽，食料・日用品等販売店等

⇒地域の防災を考える上でプラスに働く施設，設備を把握します。

③防災に役立つ人材

・地域防災にとって重要な人材に「緑色の字で「人」」を記入します。

例）自治会長，自主防災組織リーダー，消防・自衛官とそのＯＢ等

写真５　ＤＩＧ作業風景（地図上の透明シートにふせん紙やシールを貼る）

１－３　津波

⑵ 浸水，危険箇所等の確認及び色塗り等

①過去に浸水した場所，浸水想定区域

・海岸線を「水色」でなぞりましょう。
・過去に浸水が発生した範囲を「水色」に塗りましょう。
・浸水想定区域等に基づく，津波ハザードマップがあればそれを落とし込みましょう。

②危険箇所

・津波が発生した時の避難時に，危険と思われる箇所に「赤色●」シールを貼りましょう。
　例）転倒，落下，倒壊時に危険となる設備（燃料，毒性の高い物質が貯蔵されている場所，ブロック塀，石垣，屋外広告物など）

③災害時要援護者

・災害時に援護を必要とされる方がいれば，「黄色●」シールを貼りましょう。
　例）一人暮らしの高齢者，寝たきり，障害のある人，妊産婦，乳幼児，外国人等

⑶ 地域の「人的，物的防災資源」の確認及びシール貼り等

防災の観点から見た地域の資源について，地図に書き込んだり，ふせん紙やカラーラベルを貼って表示します。

①公的機関

・官公署，医療機関などの災害救援や対応にかかわる機関・施設を「青色●」シールで表示します。
　例）市町村，消防署，警察署，学校，医療機関，公民館，自治会館，ヘリポートなど

②防災に役立つ施設

・地域防災に役立つ施設に「緑色●」シールを貼ります。
　例）防災倉庫，消火栓，防火水槽，食料・日用品等販売店等
　⇒地域の防災を考える上でプラスに働く施設，設備を把握します。

③防災に役立つ人材

・地域防災にとって重要な人材に「緑色の字で「人」」を記入します。
　例）自治会長，自主防災組織リーダー，消防・自衛官とそのＯＢ等

2 防災対策の検討

作成した地図をもとにグループ内で防災について語り合いましょう。グループ内で検討した内容をまとめ，発表します。発表は，他のグループとの意見交換も含め，参加者全員が情報を共有するために行います。

⑴ 出された意見，検討結果のまとめ

グループごとに地域についての気づき（発見）を書き出してみましょう。出された意見はふせん紙に１項目ずつ書き出します。（重複可）

例）

・防災上の地域特性（地域の強み，弱み）をグループ内でとりまとめ

・情報連絡体制の確認，避難経路・避難場所，地域ぐるみの避難体制，災害時要援護者対策，避難所運営等を確認

⑵ 発表

グループごとに気づき（発見）や防災対策の検討結果について発表し，それらの情報を参加者全員で共有しましょう。

写真６　グループの発表風景

⑶ コメント，問題提起

グループの発表が終わり，議論も一段落したところで，そのテーマや，全体を通して専門家からコメントをもらうのも効果的です。ただし，その際も，コメンテーターは，出されたグループへの意見を否定したり，排除したりすることのないよう参加者への配慮が必要です。

☆ワンポイントアドバイス☆

市町村の指定する避難所（小中学校や公民館等）については，市町村が作成する防災マップやホームページ，市町村地域防災計画等で確認しましょう。

また，災害時要援護者対策を具体的に検討するためには，民生委員や市町村の福祉担当者，市町村社会福祉協議会の担当者にアドバイスをもらうことも効果的です。

※防災対策の検討にあたっては，風水害，地震，津波のテーマに応じて，１０～１１ページを参考にしてください。

※防災対策の検討にあたっての視点を「２－１風水害」「２－２地震」「２－３津波」に分けて以下に示します。テーマに応じて，以下のような視点で作成した地図を見ながら，考えてみましょう。問題点など気づいたことがあったら，遠慮なく意見を出しあい，みんなで語り合いましょう。

２－１　風水害

以下のような視点で，地図を眺めながら防災対策を検討しましょう。

例）

○避難場所，避難経路の確認

○避難体制の確認

・災害時要援護者の対策の検討

○自主防災組織の体制確認

・災害情報の情報収集方法の確認（防災行政無線，ラジオ等）

・情報伝達体制の確認

・自主避難の時期

○消防団等との連携体制確認

☆防災対策の検討のポイント☆

風水害と地震では，対応に違いがあります。

・風水害…事前対応，災害発生時，事後対応と分けて考える必要があります。

・地震…地震発生後の事後対応が中心となります。（沿岸部では津波も想定する必要）

☆ワンポイントアドバイス☆

避難経路に浸水する可能性のある場所がないかを確認しましょう。迂回路がない場合，孤立化する危険性もあるため，浸水前の早めの避難が重要になります。

写真７（平成１８年７月県北部豪雨災害の様子）

☆ワンポイントアドバイス☆

単独の町内会，集落等で災害対応が困難な場合，同じ小学校区内など，近隣の町内会，集落等と連携を図り，防災対応を行う方法もあります。

２－２　地震

以下のような視点で，地図を眺めながら防災対策を検討しましょう。

例）

○避難場所，避難経路の確認

○避難体制の確認

・災害時要援護者の対策の検討

○被災者の救助方法

○自主防災組織の体制確認

・災害情報の情報収集方法の確認（防災行政無線，ラジオ等）

・情報伝達体制の確認

・災害対策（救助，防災関係機関への連絡）の検討

・自主防災組織の拠点の選定

○消防団等との連携体制確認

写真８　地震被害（平成９年薩摩地方を震源とする地震（震度６弱））

２－３　津波

以下のような視点で，地図を眺めながら防災対策を検討しましょう。

例）

○安全な避難場所の確認

（県地域防災計画にある津波の遡上範囲より標高の高い場所及び一時避難場所の確認や津波避難ビル（堅固で高い建物）の確認）

○避難経路の確認

○避難体制の確認

・災害時要援護者の対策の検討

○自主防災組織の体制確認

・災害情報の情報収集方法の確認（防災行政無線，ラジオ等）

・情報伝達体制の確認

・災害対策（救助，防災関係機関への連絡）の検討

○消防団等との連携体制確認

☆ワンポイントアドバイス☆

津波からの避難方向については，波から遠ざかるように避難すること，なるべく高い場所に避難することが大切です。

また，津波は繰り返し襲ってくるので，警報，注意報が解除されるまで注意しましょう。

3 フィールドワーク（まち歩き）

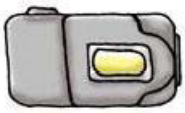
可能であれば，フィールドワーク（まち歩き）を行い，ＤＩＧで作成した地図情報が正しいかどうかの確認等を行いましょう。

⑴ 目的

・ＤＩＧで書き込んだ地図情報の確認
・危険箇所，防災資源の現状の把握
・その他，見過ごした問題点，課題などの発見
・その地点の詳細をチェック，写真撮影
・施設の名前，設備，その場所の状況の確認
・地域防災活動の啓発

⑵ まち歩きに必要なもの

・まち歩き用地図（Ａ４程度のコンパクトなもの）
・筆記用具
・メモ用紙
・画板（地図やメモ用紙等を挟みます）
・カメラ



⑶ グループ分けのパターン例

・ゾーンごと
・危険箇所（弱み，ハザード）と防災資源（強み）ごと
・要援護者視点での確認グループ　等

⑷ 役割分担

・リーダー（引率，経路確認）
・記録係（まち歩き用地図への記録）
・撮影係
・安全管理（交通事故防止）

写真９　まち歩き風景（喜界町阿伝集落）

⑸ まち歩きで見るポイント

・危険箇所
・災害用資機材及び保管場所…水利（消火栓等），消火器，防災倉庫
・一時避難場所…空き地，公園，神社等
・災害時に役立つ場所…病院・診療所，井戸等
・公共施設…消防署，警察署・交番，役場，小・中学校

⑹ 注意事項

・団体行動であるので，個人の身勝手な行動は慎みましょう。
　⇒グループが分散してしまいます。
・交通事故，特にバイク，自転車等の接触に気をつけましょう。
・他の歩行者へ配慮しましょう。

☆ワンポイントアドバイス☆
　危険箇所等が個人の所有物の場合，その場で議論，撮影はトラブルのもとですので，注意しましょう。

4 地図の修正，参加者全員での防災対策のまとめ

・フィールドワーク（まち歩き）の結果を踏まえ，地図情報を修正しましょう。
・地域内での共通認識を醸成するために，参加者全員で防災対策のまとめをしましょう。
・グループごとに気づき（発見）や防災対策の検討結果について発表し，それらの情報を参加者全員で共有しましょう。（９ページ「⑵発表」，「⑶コメント，問題提起」を参考にしましょう。）

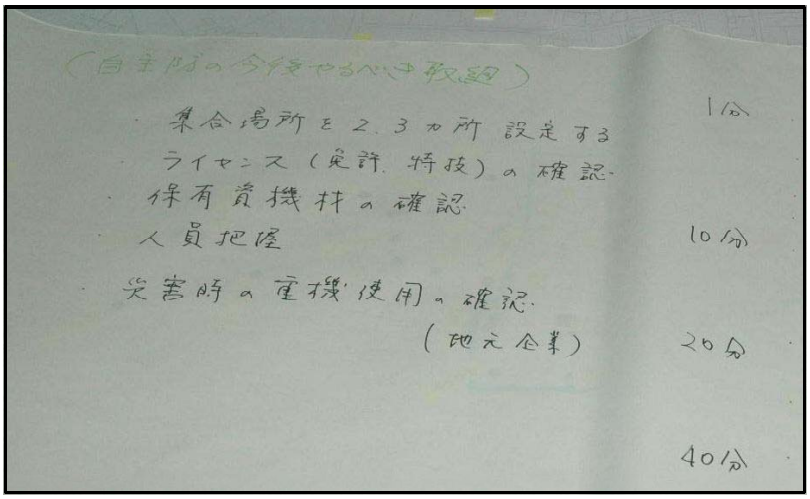


写真１０　防災対策のまとめ例（模造紙に記入）

写真１１　防災対策のまとめ風景

☆ワンポイントアドバイス☆
自主防災活動に必要な資機材に対する助成については，（財）自治総合センターのコミュニティ助成事業があります。（申請は各市町村役場から県を経由して提出）自治総合センターのＨＰから情報を入手できます。
（http://www.jichi-sogo.jp/enterprise/lottery/comunity/index.html）

Ⅳ　地域住民への周知

1　地域住民への周知

(1) 地域住民配布用地図の作成

地域住民を対象に配布する地図の作成には，以下のような方法があります。

・版下の読み込み

原稿を手書きで作成の上，スキャナ，デジカメで接写する方法

・机上出版用ソフトの利用

原稿作成・編集用のパソコンソフト（机上出版用ソフト）により版下原稿を作成する方法

・印刷業者への依頼

簡単な原稿を作成した上で，印刷，製本なども併せて印刷業者へ依頼する方法

＜注意点＞

①著作権の問題

使用する地図によっては，「著作権法」の保護対象となる場合がありますので，注意しましょう。

⇒コピー・印刷・ホームページ掲載など複製等をする場合，特定の場合を除いて，著作権の許諾を得ることが必要とされています。

②災害時要援護者の個人情報，プライバシーの問題

災害時要援護者の個人情報については，本人の同意を得ましょう。個人所有の工作物等及び倉庫等の防災資源については，管理者，所有者に許可を取りましょう。

(2) 地域住民への周知

完成した地図を地域住民へ全戸配布したり，公民館等へ掲示して，地域住民への周知を図りましょう。

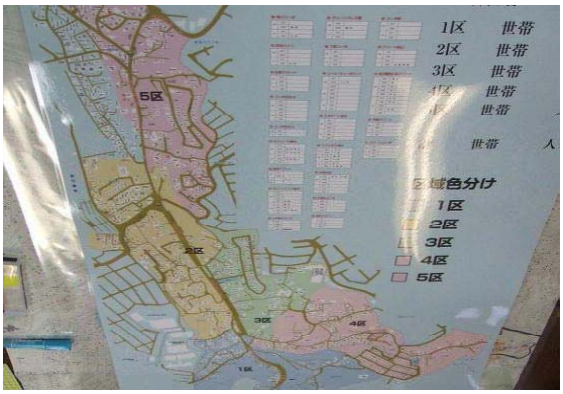


写真１２　地域防災地図の活用例

（写真左）鹿児島市坂元地区では，既存地図にＤＩＧで作成した地図情報を加える作業をパソコンで行い，カラーで印刷し，全戸配布予定

（写真右）喜界町阿伝集落では，将来，集落の案内看板の更新時に，作成した防災地図の内容を反映したいとの意見がありました